



「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. 117
April
2019



学部新入生「誓いのことば」(大田原キャンパス)

平成31年度 入学式

平成30年度 学位記授与式

新任のごあいさつ

海外保健福祉事情

理事長式辞

国際医療福祉大学・高邦会グループ理事長 高木 邦格



4月1日に、「令和」という新しい元号が発表されました。平成最後の月に入学され、令和の時代に学修、卒業される皆さまです。この大きな時代の節目に、入試の難関を突破された新入生の皆さま、また、ご支援をされてこられた保護者の皆さま、誠にありがとうございます。

日本初の医療福祉の総合大学として1995年に栃木県大田原市に開設して以来、卒業生は約2万5千人になりました。本学は現在、10学部24学科があり、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士など多くの医療従事者、多数の専門職を養成

大田原キャンパス

春の日差しが降り注ぐ4月5日、大田原キャンパスで学部入学式並びに大学院入学式を行った。アカベラサークルによる校歌「未来(あす)への扉」の斉唱に続き、大友邦学長、三浦総一郎大学院長が式辞を述べた。



●式辞を述べる大友学長

この中で大友学長は、同キャンパスに3学部8学科と大学院合わせて約4千人の学生が勉学に励んでいることを指摘。「26万㎡あまりの広大なキャンパス内に複数の医療福祉施設が併設されており、日常的に高齢者や障害を持つ人と触れ合うことで、自然に慈恵の心が培われる教育環境を整えてきた」と強調した。そのうえで「関連職種連携教育に取り組んでおり、学部・学科の枠を超えて横断的にチーム編成し、最終的には実際の医療福祉現場に赴いて実習を行うのが大きな特長だ」と呼びかけた。

それを踏まえ、新入生に対して健康と安全に十分留意するよう強く求めるとともに、「職業の基礎を身につけ、生涯の財産となる人的ネットワークを構築して

しております。全国の病院、福祉施設で皆さんの先輩たちが多数活躍し、高い評価を頂けるようになっております。2017年4月、成田に世界水準の医学教育を実践する医学部が開設されました。1学年140人のうち20人の留学生が在籍し、アジアを中心に各国でトップクラスの秀才が集まっています。

1,2年次は大多数の科目で英語の授業で行うなど革新的なカリキュラムで国内外で活躍できる医師の養成をしています。未来研究支援センターやゲノム医学研究所などを整備し、今後も研究分野を推進してまいります。昨年春、成田キャンパスに世界最大級となる成田シミュレーションセンターが完成し、さらに充実した学修環境になっていきます。

来年春にはいよいよ642床の国際医療福祉大学成田病院が開院します。開設にあたり2千人の職員を新たに採用する予定で、日本最大級の人間ドックセンターを備えるとともに、国際カウンスターを設置し、10カ国語に対応し、食事や宗教関連スペースも整備します。海外の大学・医療機関と連携拠点となる国際遠隔診断センターや感染症国際研究センター、放射線治療センター、遺伝子診断センター、がん免疫療法センター、高度生殖医療センターなどを開設し、アジアを代表するハブ病院をめざします。

昨年4月開設した東京赤坂キャンパス内の赤坂心理・医療福祉マネジメント学部(心理学科、医療マネジメント学科)は、同じキャンパス内に学部生ほしい「一番大切なのは自分の気持ち、そして一人ひとりの将来と未来だ」と学生生活の充実を期待を込めた。

また、三浦大学院長は「決して高望みをすることなく、着実に一歩ずつ前進することによって、最終的に大きな夢の実現につなげていってください」と激励した。続いて、来賓を代表して、津久井富雄大田原市長、栃木県知事代理・海老名英治県保健福祉部保健医療監から祝辞をいただいた。

これを受けて、886人の学部新入生を代表して戸田麻友さん(薬学部薬学科)が65人の大学院新入生を代表して湯山円晴さん(薬学研究所博士課程)が、それぞれ「新入生誓いのことば」を述べた。最後に、大友学長と壇上の教員が一人ひとり自己紹介した。終了後は、それぞれ、「来賓懇親会並びに大学院祝賀会」「学科別懇談会」「学科別オリエンテーション」に臨んだ。



●大学院新入生代表 湯山円晴さん



●式辞を述べる三浦大学院長

(総務課 木村裕幸)

と大学院生が集結した強みを活かして、学部と大学院が一体となった教育を実施しています。日本の国民医療費は40兆円強で、介護費用まで含むと60兆円に達するコストが医療福祉にはかかっています。この医療福祉の現場では、多職種連携がしっかりとした形で運営される必要があります。その調整機能をもった医療経営の専門家が重要だと考え、25年前に大田原キャンパスに日本初の医療経営のマネジメント学科を作りました。当時、医療経営の学科に対して慎重な声が多くありましたが、「ホテルを運営するためにホテル学科とか観光学科がある。50兆円、60兆円の医療福祉の予算を統制する中で医療福祉専門の経営職の育成は必ず求められる」と主張して開設した経緯があります。

東京・赤坂の真ん中に開設した医療マネジメント学科は大学院が一体となつて、日本の社会保障や医療政策、病院経営について学び、専門家として医療福祉の世界で貢献してほしいと願っています。大学院はいまでは日本の保健医療系としては最大規模となり、医療分野における第一人者の多くは国際医療福祉大学大学院で学び、各分野で活躍しています。

栃木県西那須野地区の国際医療福祉大学病院では、医学部の1期生が4年次となる2020年から臨床実習が始まることから、最先端の医療機器などを導入した研究棟を新築するとともに、

成田キャンパス

成田キャンパスの入学式を4月3日、成田国際文化会館で開催した。成田看護学部・成田保健医療学部はこれで4学年が揃い、完成年度を迎えた。医学部は第3期生を迎え、収容定員の半数がそろった。学生有志による校歌斉唱のあと、大友邦学長、三浦総一郎大学院長、高木邦格理事長の順に式辞を述べた。続いて、来賓を代表して小泉一成成田市長、岡田就将千葉県健康福祉部保健医療担当部長の祝辞があり、新入生529人は、この成田の地で世界を見据えた学びが始まることを肝に銘じていた。



新入生を代表して「誓いのことば」を述べる4人。右から、野原鈴香さん(言語聴覚学科=千葉県立成田国際高等学校出身)、金谷紗良さん(医学科=兵庫県須磨学園高等学校出身)、ヘインテアウンさん(医学科・留学生=ミャンマー出身)、安谷屋仁さん(医学研究科 医学専攻 臨床医学研究分野)

(広報 金井雅之)

55床の増床のための新病棟も完成し、今春から稼働しています。昨春秋には、実習する学生や国際医療福祉大学病院の患者さま、ご家族がご活用いただける113室の那須マロニエホテルがオープンしました。このほか、西那須野地区には、グループの邦友会が昨年春、国際医療福祉大学病院の敷地内に栃木県北では初となる病児保育施設を併設した認定こども園・西那須野キッズハウスを開設、また特別養護老人ホーム・栃の実荘を増床してリニューアルいたしました。これによって、乳幼児から高齢者まで総合的な教育と福祉の拠点が誕生したといえます。

来年2020年に本学は25周年を迎える節目の年です。国際医療福祉大学成田病院の新設のほかにも、千葉県唯一となる診療放射線技師の養成校として成田キャンパスに放射線・情報科学科を、大川キャンパスに、大田原キャンパスで築いてきた全国トップクラスの国試合格率の実績をもとに福岡薬学部を、それぞれ開設する予定です。国際医療福祉大学は大谷藤郎・初代学長が提唱した「病氣や障害を持つ人も健康な人も互いに認め合って尊重しあう『共に生きる社会』の実現をめざす」という建学の精神のもと発展してきました。これからも、本日入学された皆さまに、さまざまな、多くの可能性を提供いたします。先生方とよく相談して、大学時代また大学院で、有意義な生活を送られることを祈りまして、私のメッセージといたします。

小田原キャンパス

天候に恵まれ、入学式に相応しく城内キャンパスの桜が満開の4月4日、小田原保健医療学部・大学院入学式が行われた。時田光章小田原市副市長、小森哲夫国立病院機構箱根病院院長をはじめ、多くの来賓、保護者、教職員に見守られ学部新入生217人(看護学科87人、理学療法学科87人、作業療法学科43人と小田原・熱海キャンパスに所属する大学院新入生24人(博士課程8人、修士課程16人)が入学した。大友邦学長、三浦総一郎大学院長の式辞の後、学部新入生を代表して、今井陽さん(理学療法学科)、大学院新入生を代表して宮崎裕子さん(博士課程)が、誓いのことばを述べた。



●新入生代表 今井陽さん

今井さんは、「私たちが私たちに必要としている方々の支えとなれるよう、理学療法士、作業療法士、看護師として活躍していきたい。共に生きる社会をつくっていきたい。家族や先生方など周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、夢をかなえる努力をしていきます」と誓っていた。

(事務課 三浦星夢)

特集 平成31年度入学式

東京赤坂キャンパス

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部と大学院の入学式が4月2日、東京赤坂キャンパス講堂で行われ、同学部の新入生130人（心理学科64人、医療マネジメント学科66人）と、大学院新入生のうち196人が出席した。校歌斉唱の後、大友邦学長、三浦総一郎大学院長、高木邦格理事長の式辞に続き、来賓を代表して丸川珠代参議院議員が祝辞を述べた。



●心理学科 須藤真珠さん
●医学研究科医学専攻 谷口浩久さん

これを受け、学部新入生を代表して須藤真珠さん（心理学科）が「4年間立派な医療人になるための技能、技術、知識を身に付ける大切な時間だ。1日1日を大切に、努力を重ねていく」と誓いのことを述べた。また、大学院新入生を代表した谷口浩久さん（医学研究科医学専攻）は「世界を舞台に新たな分野を切り開いていくことをめざし、自己研鑽に努める。日本の医療保健福祉の向上に貢献できるように、日々の研究に励む」との決意を語った。

（広報部 對馬好二）

福岡・大川キャンパス

福岡キャンパスと大川キャンパスの合同入学式が4月7日、大川キャンパス講堂で行われ、福岡保健医療学部（257人）、福岡看護学部（122人）、九州地区大学院（50人）の新入生429人と、保護者、学部・大学院の教職員ら計約1100人が出席した。



●学部新入生代表 中島来夢さん

校歌「未来（あす）への扉」の斉唱に続き、大友邦学長、三浦総一郎大学院長、高木邦格理事長が式辞を述べた。続いて、浦明彦福岡県臨床衛生検査技師会会長から祝辞をいただいた。

（入試学生募集課 井上雅博）

塩谷看護専門学校

塩谷看護専門学校は4月8日、本校講堂で入学式を行い、38人が入学した。岩本俊彦学長が「私たちは同じ目標に向かって進むチームです。共に喜び、共に苦しみ、青春を謳歌しながら最後に全員で喜びを分かち合いましょ。夢は努力した人間にのみ実現する特権です。友と夢を分かち合い、助け合って、夢に描いた将来を現実のものとしましょ」と激励の言葉を贈った。



●祝辞を聞く新入生

また、来賓の齋藤淳一郎矢板市長、佐藤勇人塩谷郡市医師会理事、鱒淵清子公益社団法人栃木県看護協会専務理事から祝辞をいただいた。



●兼松侑那さんによる誓いの言葉

（事務部 田島鮎子）

福岡国際医療福祉大学 開学式・入学式

福岡国際医療福祉大学の開学式入学式を4月6日に行った。福岡市では初のリハビリテーション専門職を養成する4年制大学の誕生となる。



●式辞を述べる高木理事長

医療学部136人（理学療法学科49人、作業療法学科47人、視能訓練学科40人）と言語聴覚専攻科23人の新入生を迎え、高木邦格理事長が「生涯教育で日本の医療福祉に貢献できるように」と式辞を述べた。今泉勉学長は「新しい大学の伝統と文化を一緒に作っていきましょう」と激励のメッセージを贈った。来賓の高島宗一郎福岡市長、久保千春九州大学総長、江口勝福岡県副知事、中村春基日本作業療法士協会会長からも、本学への期待や医療専門職の重要性に触れる、心温まる祝辞を頂戴した。

（入試広報課 白水明生）

平成31年度 学部新入生・大学院新入生概要

学部合計 2120人

大田原キャンパス

保健医療学部 合計	557人
看護学科	119人
理学療法学科	104人
作業療法学科	82人
言語聴覚学科	80人
視能療法学科	52人
放射線・情報科学科	120人
医療福祉学部 合計	143人
医療福祉・マネジメント学科	143人
薬学部 合計	186人
薬学科	186人

成田キャンパス

医学部 合計	140人
医学科	140人
看護学部 合計	109人
看護学科	109人
成田保健医療学部 合計	259人
理学療法学科	86人
作業療法学科	45人
言語聴覚学科	42人
医学検査学科	86人

東京赤坂キャンパス

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 合計	130人
心理学科	64人
医療マネジメント学科	66人

特集 平成31年度入学式

小田原キャンパス

小田原保健医療学部 合計	217人
看護学科	87人
理学療法学科	87人
作業療法学科	43人
福岡キャンパス 合計	122人
看護学科	122人
大川キャンパス 合計	257人
福岡保健医療学部 合計	257人
理学療法学科	94人
作業療法学科	40人
言語聴覚学科	41人
医学検査学科	82人

大学院合計

大学院合計	475人
修士課程 合計	363人
医学研究科	14人
公衆衛生学専攻	14人
医療福祉学専攻	249人
保健医療学専攻	74人
医療福祉経営専攻	26人
臨床心理学専攻	112人
博士課程 合計	112人
医学研究科	19人
医学専攻	19人
医療福祉学専攻	90人
保健医療学専攻	90人
薬学研究科	3人
医療・生命薬学専攻	3人

特集 平成31年度入学式

理事長式辞
大田原キャンパス／成田キャンパス／小田原キャンパス／東京赤坂キャンパス／福岡・大川キャンパス／塩谷看護専門学校／福岡国際医療福祉大学 学部新入生・大学院新入生概要

新任のあひさつ

山田 芳嗣	副学長・国際医療福祉大学三田病院病院長
河上 裕	医学部 学部長
田中 秀一	医療福祉学部 学部長
百瀬 泰行	薬学部 学部長
池田 佳史	国際医療福祉大学熱海病院病院長
白石 昌彦	薬学部 薬学科長
倉智 雅子	成田保健医療学部 言語聴覚学科長
日田 勝子	福岡保健医療学部 作業療法学科長
杉原 素子	新宿げやき園 施設長

トピックス

福岡薬学部起式式／成田保健医療学部 放射線・情報科学科の設置を計画／高校生作文コンテスト受賞者がベトナムツアーへ／西那須野地区約100億円プロジェクトが完成／宮地先生を偲ぶタペ／2018年度国家試験結果 学位記授与式・卒業生特集
大田原キャンパス／小田原キャンパス／大川・福岡キャンパス／東京赤坂キャンパス／大学院学位記伝達式／塩谷看護専門学校卒業式／博士課程修了者・論文博士士合格者一覧／卒業生総代・学長賞・大学院長賞 キャンパスレポート
大田原 視能療法学科4年生 高齢女性を保護し表彰／福島県富岡小中学校を訪問
成田 成田北高等学校との高大連携協定締結式／「今後の成田市のまちづくりについて考えるワークショップ」を開催
福岡 学友会主催のクリスマス会
大川 2018年度韓国テグハニ大学受入研修
オープンキャンパスなどイベントを開催
施設インフォメーション
国際医療福祉大学病院／塩谷病院／三田病院／熱海病院／市川病院／山王病院／福岡中央病院
海外保健福祉事情
オーストラリア／タイ／シンガポール／ハンガリー
キャンパスブラスー クラブ・サークル紹介
障害者スポーツクラブ(PSC)(大川キャンパス)

※表紙の新入生は、薬学部・戸田麻友さん

新任のごあいさつ



副学長・国際医療福祉大学三田病院病院長
山田 芳嗣
東京大学医学部卒。マサチューセッツ総合病院およびハーバードメディカルスクールにて研究。東京大学大学院医学系研究科外科学専攻生体管理医学講座教授(麻酔科学)、横浜市立大学大学院医学研究科教授などを歴任。

このたび、副学長・三田病院長を拝命しました。3月末までは東京大学医学部附属病院に勤務し、麻酔科・痛みセンター教授として、手術麻酔、術後集中治療、ペインクリニック、および緩和ケアの診療を統括してまいりました。心臓、肺、肝臓の脳死ドナーからの臓器移植手術が年間数十例に及ぶ総合病院で、広範な領域の診療をカバーする麻酔科医の体制整備を実現してきました。本学医学部では来年、全面的に臨床実習を開始されます。革新的な医学教育を実践されてきているので、その方向性を堅持した充実した臨床実習が行えるよう、各病院の十分な準備・対応を検討したいと考えています。来年間開院予定の成田病院と緊密に連携し、「チーム医療・チームケア」の理念を生かした臨床実習の実現に尽力したいと考えています。各病院の連携で、患者さんのニーズに高品質で応える運営を進めていきたいと思っております。ご指導・ご支援のほど、よろしくお願いたします。



国際医療福祉大学熱海病院病院長
池田 佳史
慶應義塾大学卒。医学博士。慶應義塾大学客員教授。日本消化器外科学会認定指導医・消化器外科専門医、日本外科学会認定指導医・外科専門医、日本消化器内視鏡学会認定指導医・消化器内視鏡専門医など。本学医学部教授。

このたび国際医療福祉大学熱海病院病院長を拝命いたしました。三田病院に在職中はたくさんの方々のご厚情を賜り誠にありがとうございました。熱海病院は2016年4月に認定された地域がん診療病院として、また地域の二次救急医療をご提供する救急医療の拠点として、静岡県東部、伊豆半島全域、神奈川県西部の医療を支える中核病院です。当然、熱海病院の存在意義は地域住民の健康を守ることです。そのため病院の職員は一丸となって、地域住民の健康を守ることに労を惜しまず、病院は医療の質を絶えず向上させ、医療を継続していくことで地域に貢献することが望まれています。しかし、医療の質を守りながら病院を継続させていくためには、利益も必要となります。地域の患者様に対する責任のある重要な役割を担うために、職員とともに同じ目標を共有し、同じ方向に努力して、強い組織になるよう努力する所存です。ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

新任のごあいさつ



医学部 学部長
河上 裕
慶應義塾大学医学部卒。医学博士。同大名誉教授・特任教授。南フロリダ大、カリフォルニア工科大、NIH国立がん研究所に留学。慶應義塾大学医学部先端医科学研究所所長・教授、医学研究科委員長などを歴任。日本がん免疫学会理事長。

4月から医学部長を拝命いたしました。私は、内科専門医として、また慶應義塾大学およびNIH国立がん研究所など12年間の米国留学で、がんを中心とする免疫学や免疫療法の開発に従事してきました。世界に誇る医学部を目指すためには、優れた人材を確保して、ハード・ソフト両面の戦略的な支援により、教育・研究・診療、全てにおいて優れた成果をだしていくことが求められます。良い医師になるためには、医学の習得に加えて、さまざまなバックグラウンドをもつ患者さんに、多職種チーム医療で対応できる豊かな人間性が求められます。医療系総合大学の新学部である利点を活かして、すでにActive Learning、新しい医学英語教育など先進的な教育が進められています。皆様と一緒に医学部の発展のために、将来世界で活躍できる若手を育てるために、一歩一歩着実に進めていきたいと思っております。皆様の引き続きの、ご支援、ご指導を何卒よろしくお願申し上げます。



薬学部 薬学科長
白石 昌彦
大阪大学薬学部卒。同大学院薬学研究科博士前期課程修了。国立がんセンター研究所研究員、米国マサチューセッツ工科大学博士研究員、国立がんセンター研究所室長・プロジェクトリーダーを経て本学兼任。

薬学部は創設されてから15年目になります。この間歴代の学部長・学科学長の先生方のご指導の下、有為の人材が多く巣立っていきましました。私は薬学部創設と同時に着任し、学生の教育に従事してまいりました。4月から学科学長を拝命し、重大な職務を引き継ぐことを思うと身が引き締まる思いです。チーム医療における薬剤師の役割は年々重要さを増しています。薬物治療に参加し、チームの一員として役立つためには薬に関する深い知識が求められます。また次々と登場する新薬を適切に使いこなすには基礎学力を基盤とした柔軟な思考力が必要です。一方でコミュニケーション力の重要性は議論の余地のないところです。病気を悩んでいる方、医療スタッフとはもちろんのこと、普段かかわるすべての人々を意思を同じにすることは薬剤師の基本的な素養といえます。今後も知識・技能・態度の三拍子そろった人材の育成を目指し、尽力してゆくと存です。皆様の一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。



成田保健医療学部 言語聴覚学科長
成田 雅子
国際基督教大卒。国立身体障害者リハビリテーションセンター学院、院大学大学院修士課程、ノースウエスタン大学大学院博士課程修了 (PhD)。

この度、成田保健医療学部言語聴覚学科学長を拝命いたしました。本学には昨年4月より入職し、言語聴覚学科で1年間副学科学長を務めさせて頂きました。学科学長就任を大変光栄に感じますとともに、重責を担う立場への就任に身の引き締まる思いです。本学の言語聴覚学科は1995年の大田原キャンパス開学以来、国内外に誇



医療福祉学部 学部長
田中 秀一
慶應義塾大学経済学部卒業後、読売新聞社に入社。医療情報部長(現医療部)、社会保障部長、論説委員(社説)、編集局次長を歴任。1998年、「国内初の卵子提供による体外受精」の報道で新聞協会賞受賞。

医療福祉学部長を拝命しました。急速に高齢化が進む日本では、医療・介護の仕事に就く人々の役割はますます大きくなります。本学の使命も同様に大きくなるのであり、重責を担うことに身が引き締まる思いがしています。この3月まで読売新聞の調査研究部に所属し、医療・社会保障の取材に携わっていました。「心と体に優しい医療の実現」をテーマにした同紙の長期連載「医療ルネサンス」を18年間担当し、医師、医療関係者ともより、多くの患者の方々に話をうかがいました。医学については素人に過ぎませんが、患者・利用者の視点で医療・福祉に取り組むことの大切さを、学生とともに考えていきたいと思っています。本学は広々としたキャンパスと充実した設備、教師陣、そして自由闊達な雰囲気があります。日本の未来を担う人材を育てるために微力を尽くしたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



福岡保健医療学部 作業療法学科長
日田 勝子
療育センターにて臨床を経験後、養成校にて就職。2006年より本学大学院で博士取得。

福岡保健医療学部作業療法学科の学科学長を拝命致しました。これまで、開学初期から一教員として学科の教育体制の構築や学生指導に関わり、大川キャンパスの歴史とともに歩んでまいりました。この度の学科学長就任に



新宿けやき園 施設長
杉原 素子
お茶の水女子大学人文科学研究科教育学専攻修士課程修了。南カリフォルニア大学作業療法学科資格取得。課程修了(米国作業療法士資格取得)。国際医療福祉大学大学院教授。

2008年6月に開設された新宿区百人町にある新宿けやき園施設長に4月1日付けで着任いたしました。私は当施設の施設長をこれまで2回経験し、今回の就任で3回目となります。新宿けやき園は、全個室ユニット型特別養護老人ホーム、障害者入所施設デイサービスとして地域密着型認知症デイサービスの複合的サービスを掲げ、新宿区民を主な利用者としてスタート



薬学部 学部長
百瀬 泰行
信州大学医学研究科医学系専攻大学院博士課程修了。日本医療薬学会代議員・認定薬剤師制度委員会委員・薬物療法専門薬剤師研修委員会委員、日本病院薬剤師会将来計画委員会、日本薬学会関東支部薬剤師研修委員長など。

このたび、薬学部学部長を拝命いたしました。薬学教育では、薬学教育モデルコアカリキュラムに準拠した学習内容が多く含まれ、2013年にはそのカリキュラムの改訂が行われました。その中で、薬物療法における実践的能力や、基礎的な科学力ともより、研究能力や教育能力、患者さんや生活者本位の視点、コミュニケーション能力など、薬剤師としてふさわしい多くの基本的な資質や能力を大学卒業時まで身につけるよう求められています。私は、3年前より国際医療福祉大学病院と塩谷病院の統括薬剤部長を併任しており、教育と臨床の両方に関わらせていただいております。薬学教育の充実のために、大学と病院、そして地域のより一層の連携を図っていきたく思います。加えて、個性ある本学独自のカリキュラムも充実させ、社会のニーズに十二分な貢献ができる資質と能力を持った薬剤師を育成していく所存です。皆様のご指導、ご鞭撻を何卒よろしくお願申し上げます。

関し、これまでの学科の歴史を重んじ、新たな時間を刻んでいくことに大きな責任を感じております。作業療法学科は、歴代の学科学長とともに築き上げた「あきらめない教育」に一丸となって取り組んでまいりました。これまでの学科方針を引継ぎ、本学科の取り組みがさらなる成果として形となつていくよう学科学長とともに尽力を尽くしたいと考えております。最後になりますが、障害を持つた方々と共に考え、共に歩むことが出来る作業療法士の育成をめざしていきたいと思えます。微力ですが、よろしくご指導・ご鞭撻のほどお願申し上げます。

しました。したがって当施設の利用者は、正に住み慣れた地域で求めるサービスを受けることができる方々であり、ご家族の出入りも多く、近隣住民の様々な活動の場としても活用されてきました。施設内クラブ活動には高齢の方々と障害を有する方々が一緒に参加し、お互いを見守る光景は日常的な姿でもあります。そして、国際医療福祉大学三田病院との組織的連携による安全安心の保障の存在は大きいです。この施設で、職員利用者そして近隣の住民と共に、知恵を絞って豊かな地域生活を組み立てていく所存です。グループの教員・学生・院生の教育研究の場としての出入りも大歓迎です。

福岡薬学部起工式を挙行 来年開設で設置届出書類 提出中

来年4月の開設をめざしている福岡薬学部の校舎の起工式が2月21日、大川キャンパスで執り行われた。式には高木邦格理事長、大友邦学長、外須美夫副学長と来賓の倉重良一大川市長、川野栄美子大川市議会議長、津村洋一郎大川商工会議所会頭ら、学内、地元、工事関係者など約60人が出席した。

高木理事長は地鎮祭で初初（かりそめ）の儀などを滞りなく行い、工事の安全を祈願した後、「大川キャンパスは薬



●初初（かりそめ）の儀（左より、高木理事長、大友学長、外副学長）

学部設置により完成年度を迎える2026年には学生数1700人規模へと拡大する。今後も大川市と連携・協力し、地元発展に貢献したい。また、教育のみならず研究体制の充実による

質的向上を図りたい」と挨拶した。一方、倉重市長は「大学と連携し、学生とともに活力ある街をつくっていききたい」と祝辞を述べた。

県内では薬剤師が福岡市などの大都市圏に集中することから、大川市など県南地区の病院・薬局では人材が不足している。この地域で初めての同学部設置にはその状況を改善することが期待されている。

大川市との間では昨年3月、校地の譲渡などに加え、①知的、人的、物的資源の活用②共同事業の企画、調整、推進③地域活性化などの相互連携を内容とする基本協定を締結した。

新学部の入学定員は120人。6年制で薬学科を設置し、完成後の総定員は6学年720人となる。既存の福岡保健医療学部と合わせた大川キャンパス全体の学生数は75%程度増えることになる。

福岡保健医療学部の理学療法、作業療法、言語聴覚、医学検査の4学科や福岡看護学部など学内他学部や関連病院と協力し、学部・学科の垣根を越えて学ぶ関連職種連携教育を実践し、①チーム医療・チームケアを担う医療人の育成②臨床に強い薬剤師の育成③附属病院と豊富な関連施設で充実した実習を進めることにしている。



●福岡薬学部棟完成予想図

西那須野地区 約100億円プロジェクトが完成

栃木県那須塩原市で社会福祉法人那須会が運営する特別養護老人ホーム「那須実荘」が4月、新築増床リニューアルオープンし、2017年から行ってきた西那須野地区約100億円プロジェクトが完成した。

同プロジェクトは、那須塩原市と協力し、県北の地域医療・福祉のニーズに応えるとともに、成田キャンパスにある医学部の臨床実習先などの充実をめざしている。



●リニューアルオープンした那須実荘

1994年7月に入所52人、短期入所生活介護10人の規模で開設した那須実荘は、今回のリニューアルで入所102人、短期入所生活介護20人の規模に拡大した。

プロジェクトの中心で、同市内にある国際医療福祉大学病院の新棟建設は今年1月に完成し、2月から使用を開始した。6階建て約10000平方メートル。同院の病床数は従来の353床から408床に増え、国の特定機能病院へのステップアップの条件の1つ（病床数400床以上）をクリアした。

これに先立ち、昨年4月に同院敷地内で開園した幼保連携型認定こども園「西那須野キッズハウス」は定員135人でスタッフは約40人。保育園と幼稚園の特徴を兼ね備え、保育と教育を一体的に行い、同市で初めて病児保育にも対応できる体制を整えた。

また、同院隣接地では同11月、新設の「那須マロニエホテル」が営業開始した。パリアフリー

成田保健医療学部に 放射線・情報科学科の設置を 計画

2016年に開設した成田看護学部・成田保健医療学部は、今年度の入学生で4学年が揃い、いよいよ完成年度を迎えた。この成田保健医療学部に、来年度、診療放射線技師を養成する放射線・情報科学科を開設すべく、3月末、文部科学省に設置届出書類を提出した。

近年の医学・医療の進歩はめざましく、画像診断装置や放射線治療装置を扱う高度な知識と技術を有する診療放射線技師が求められている。一方、千葉県内の病院に勤務する診療放射線技師の数は人口10万人当たり30:1人で全国45位。養成校もなく、県内における診療放射線技師不足の解消が求められている。

今回の計画は、こうした要請に応えるべく、大田原キャンパスでの実績をもとに、成田キャンパスで診療放射線技師の養成を開始するものである。来年4月には、国際医療福祉大学成田病院内の開設を予定しており、「国際遠隔診断センター」を設置するなど、診療放射線技師の活躍が期待される取り組みを進めていく。



●大田原キャンパスの演習の様子

第9回 高校生作文コンテスト受賞者 ベトナム医療福祉体験ツアー

昨年12月に表彰された「第9回」共に生きる社会」めざして高校生作文コンテスト」の受賞者たちの「ベトナム医療福祉体験ツアー」を3月24日から29日までベトナム・ホーチミン市で行った。

1日目と2日目の午前中は国立チョーライ病院を訪問し、ベトナムの医療事情や病院について説明を受けた。また、救急・リハビリ室・検査室・脳外科病棟・外科病棟を見学し、日本とは全く異なる状況を知ることができた。

その後、在ホーチミン日本国総領事館や国際協力機構（JICA）の事務所を訪ね、ベトナムと日本の関係や政府開発援助（ODA）活動について伺い、参加者から色々な質問をした。

身障児支援施設も訪問し、施設に入っている子どもたちの中にはベトナム戦争時の枯葉剤の影響と思われる症状があることを目の当たりにした。その後見学したベトナム戦争証跡博物館に展示されていた枯葉剤の被害者の写真などで、今なお枯葉剤に苦しむ人が大勢いることを知り、戦争の悲劇を改めて体感した。

最終日にはドック検診センター（HECI）の見学後、今回学んだことを含め意見交換し、帰路について話した。



●統一会堂にて

身障児支援施設も訪問し、施設に入っている子どもたちの中にはベトナム戦争時の枯葉剤の影響と思われる症状があることを目の当たりにした。その後見学したベトナム戦争証跡博物館に展示されていた枯葉剤の被害者の写真などで、今なお枯葉剤に苦しむ人が大勢いることを知り、戦争の悲劇を改めて体感した。

最終日にはドック検診センター（HECI）の見学後、今回学んだことを含め意見交換し、帰路について話した。



●ドック検診センターでの意見交換

宮地先生を偲ぶ夕べ

1995年開学の際の学校法人国際医療福祉大学の副理事長で、今年2月23日に91歳で逝去した宮地貫一先生を偲ぶ夕べが4月19日夜、東京・千代田区のホテルで開かれ、遺族をはじめ本学関係者と、出身地・高知県関係者ら約50人が出席した。

高木邦格理事長の開会の辞に続き、長男の宮地力氏が遺族を代表して挨拶。土佐酒での献杯の後、歓談が続いた。出席者からは「確かな指導力と時代を先取りした先見性を持ち、豪放磊落で若い人の面倒見がよく、多くの人に信頼されていた」などと偲ぶ声が聞かれた。最後に長女の馬場麻里子さんが偲ぶ夕べ開催への謝辞を述べた。

宮地元副理事長は土佐高校を経て東京帝国大学法学部政治学科を卒業し、1952年に旧文部省入省。文部事務次官を務めた。放送大学学園理事長の後、本学副理事長に就任した。高知工科大学設立に尽力し、2001年に勲二等旭日重光章を受章した。



●開会の辞を述べる高木理事長

2018年度 国家試験結果

資格	キャンパス	合格率
看護師	大田原	98.5% 合格者数:全国8位(129人)
	小田原	98.7%
	福岡	98.0%
	全国合格率	89.3%
保健師	大田原	93.2%
	小田原	100%
	福岡	100%
	全国合格率	81.8%
理学療法士	大田原	97.8% 合格者数:全国5位(91人)
	小田原	100%
	大川	99.0% 合格者数:全国2位(98人)
	全国合格率	85.8%
作業療法士	大田原	97.0% 合格者数:全国1位(97人)
	小田原	95.1%
	大川	100% 合格者数:全国6位(43人)
	全国合格率	71.3%

資格	キャンパス	合格率
言語聴覚士	大田原	91.0% 合格者数:全国1位(71人)
	大川	97.8% 合格者数:全国2位(45人)
	全国合格率	68.9%
視能訓練士	大田原	100% 合格者数:全国3位(43人)
	全国合格率	98.2%
診療放射線技師	大田原	94.3% 合格者数:全国2位(99人)
	全国合格率	79.2%
臨床検査技師	大川	96.3% 合格者数:全国7位(77人)
	全国合格率	75.2%
社会福祉士	大田原	75.2% 合格者数:全国1位 (受験者数100人以上の大学)
	全国合格率	29.9%
精神保健福祉士	大田原	94.4% 合格者数:全国1位(34人)
	全国合格率	62.7%
介護福祉士	大田原	100%
	全国合格率	83.7%
薬剤師	大田原	97.3% 合格者数:全国2位(私立大学)
	全国合格率	70.9%

※順位は、4年制大学(薬学部は6年制大学)養成校(通信教育課程除く)における本学新卒者の実績 ※介護福祉士の全国合格率は、介護福祉士養成施設(大学、専門学校)の合格率

大田原キャンパス学位記授与式

大田原キャンパスの平成30年度学位記授与式が3月13日、明るい陽ざしに恵まれた同キャンパスで行われた。

校歌「未来(あす)への扉」の斉唱に続き、大友邦学長から学部卒業生総代の富山華菜さん(薬学科)へ、三浦総一郎(修士課程・医療福祉学研究所)へ、それぞれ学位記が手渡された。

その後、各学科の学業成績優秀者に「学長賞」が、博士課程・修士課程の修士課程の研究業績優秀者に「大学院長賞」が授与された。

大友学長、三浦大学院長、高木邦格理事長の式辞に続き、来賓の津久井富雄大田原市長、栃木県知事代理・



●学長賞を授与される学業成績優秀者



●大学院長賞を授与される研究業績優秀者

國井隆弘県保健福祉部次長から祝辞をいただいた。

その後、学部卒業生総代の富山さん、大学院修了生代表の根本さんがそれぞれ謝辞を述べた。この中で富山さんは「相手の立場に立った医療や福祉を実践することで、共に生きる社会の実現に貢献できるよう努力する」と誓い、根本さんは「強い志を持ち、1つずつ理念を実現していくことで、医療福祉に広がる重要な役割を、多くの仲間と共に成し遂げる」とが、「決意を語った。」

式の最後には卒業生代表の田村麻由佳さん(医療福祉・マネジメント学科)による「卒業記念品贈呈」をもって閉式となった。(総務課 木村裕幸)

小田原キャンパス学位記授与式

小田原キャンパスの学位記授与式を3月8日、挙行した。

前日の風雨が収まって天候に恵まれ、栢沼行雄小田原市教育委員会教育長、小森哲夫国立病院機構栢根病院院長をはじめ多くの来賓、保護者、教職員に見守られ卒業生165人(看護学科75人、理学療法学科49人、作業療法学科41人)と、小田原・熱海キャンパスの大学院生17人(博士課程4人、修士課程13人)に学位記が手渡された。

大友邦学長、三浦総一郎大学院長の式辞の後、学部総代の中本優香さん(看護学科)、大学院総代の入野隆仁さん(博士課程)と鈴木勝喜さん(修士課程)が学位記を受け取った。引き続き、学部卒業生を代表し、神野元希さん(理学療法学科)、大学院修了生を代表し、佐藤美樹さん(博士課程)がそれぞれ謝辞を述べた。



●式辞する大友学長

この中で神野さんは「日々努力を重ね、医療福祉の発展に貢献できるような進んでいく」と決意を語り、佐藤さんは「修了生としての誇りを持ち、地域社会で自らの役割を果たして行きたい」との抱負を明らかにした。

大学への記念品贈呈では石井麻那さん(作業療法学科)からグラウンド整備一式の目録が大友学長に手渡された。(事務課 三浦星夢)

大川キャンパス・福岡キャンパス合同学位記授与式

福岡保健医療学部、福岡看護学部、大学院の合同学位記授与式が3月11日、福岡市早良区百道浜の福岡国際医療福

博士課程修了者・論文博士合格者一覧

【看護学分野】

・佐藤 京子 「看護管理職の管理能力に影響を及ぼす要因」

【理学療法学分野】

・遠藤 佳章 「超音波画像診断装置を用いた高齢入院男性における基本動作能力と自立度評価の相関性」

【作業療法学分野】

・井上 忠彦 「地域在住高齢者の認知機能低下及び転倒における関連要因の検討」

【言語聴覚学分野】

・佐々木 香緒里 「自閉症スペクトラム障害におけるオノマトペの理解」

【薬学研究科】

・SUJIMANE SAN 「Contributions of cytochrome P450 3A4 and 3A5 to the metabolism of hepatitis C direct-acting antiviral agents in vitro」

【臨床検査学分野】

・船島 由美子 「LAMP法を用いた簡易迅速なIMP、KPC、NDM、VIM、MOXA、48-likeカラムパネマゼ産生遺伝子の網羅的検出法に関する研究」

【医療福祉経営学分野】

・卓 進 「高齢者施設の地域別需給バランスの評価と将来予測」

【先進的ケア・ネットワーク開発研究分野】

・小林 由起子 「特別養護老人ホームに勤務する看護師の職務継続と組織「フラットメント」

【臨床心理学分野】

・山谷 佳子 「がん罹患が若年成人がサブタイプの恋愛行動や結婚に及ぼす影響」

【福祉支援工学分野】

・長田 悠路 「片麻痺患者が歩き始める際の歩行肢遣択」

【放射線・情報科学分野】

・THE PE WIN 「The influence of count normalization methods on the statistical image analysis using the digital brain phantom obtained from fluorodeoxyglucose-positron emission tomography」

東京赤坂キャンパス 大学院 学位記伝達式

3月16日、東京赤坂キャンパスで大学院学位記伝達式、修了生歓迎会が開かれ、150人近い修了生が参加した。2018年4月に開設した同キャンパスでは、初めて修了生を送り出す、記念すべき年となった。

この時期らしい爽やかな気候に恵まれ、晴れ着やバチエラガウンに身を包んだ修了生の姿も目立ち、厳かな雰囲気の中、皆引き締まった晴れやかな表情で式典に臨んだ。

三浦総一郎大学院長から、これまでの研究生生活へのねぎらいと、これからの研究生生活への激励の言葉が贈られ、出席者は気持ちを引き締め、心を新たにされた様子だった。

式典修了後は、待望の学位記を胸に記念撮影に臨むなど、各自思い思いに、恩師や共に学んだ仲間たちとの親交を深めていた。

19年度は、過去最高だった前年度を大きく上回る470人以上の入学者を迎え



●学位記伝達式会場の様子



●三浦大学院長による学位記授与

塩谷看護専門学校卒業式

塩谷看護専門学校は3月6日、本校講堂で卒業式を執り行った。

国際医療福祉大学の新井田孝裕副学長の式辞に続き、来賓の齋藤淳一郎矢板市長、秋山正則塩谷郡市医師会会長代理、公益社団法人 栃木県看護協会の馬込公子常任理事から祝辞をいただき、39人の新たな門出を祝った。式では、岩本俊彦学校長が一人ひとりに卒業証書を手渡し、「社会で活躍する看護のプロとして、常日頃から心技体を磨き、高みをめざしてほしい」と、はなむけの言葉を贈った。その後、卒業生代表として池澤星来さんが答辞を述べた。



●卒業証書授与



●祝辞を聞く卒業生たち

卒業生は気持ちを新たに、看護の道の第一歩を踏み出した。卒業生の今後の活躍を教職員一同期待している。(事務課 田島鮎子)

卒業生総代・学長賞

卒業生総代



大田原キャンパス 薬学部
薬学科 富山 華菜

大学生活を振り返りますと、期待と不安の入り交じった入学式から6年という月日が経過し、今私たちは新しい一歩を踏み出そうとしています。大学生活では、数多くの貴重な経験と、かけがえのない人々との出会いや自分自身と向き合う時間の中で、人間として大きく成長することができました。

また諸先生方には、専門職としての知識や技術に留まらず、社会人や医療人としての心得など数多くのことを指導いただきました。臨床実習においては、自らの未熟さを痛感し将来に不安を感じることもありましたが、常に努力し続けることの大切さを学び、それら乗り越えたことが自信に繋がりました。

この6年間ともに支え合ってきた友人たち、そして陰ながら見守ってくれた家族には深く感謝しております。また、大田原市民の皆様のおかげにより、実りある大学生活を送ることができました。心より感謝申し上げます。今後私たちに多くは困難や岐路が待ち受けていることと思います。まだまだ未熟な私たちですが、国際医療福祉大学で学べたことに誇りを持ち、相手の立場に立った医療や福祉を実践することで、「共に生きる社会」の実現に貢献できるよう努力していきたいと思っております。



小田原キャンパス 小田原保健医療学部
看護学科 中本 優香

看護について多方面から学ぶことができ、そして自分を見つめ直すことができた4年間でした。大変なことも多かった一方、支えあった仲間、温かく指導くださった先生方や指導者の方々、患者さんのおかげで看護とは何かを学び、楽しさを知ることができたので、さらなる目標を抱くことができました。そして、病院・地域・学校など様々な場所での実習を通して看護の幅広さを知り、看護職として様々なことに挑戦したいと思うようになりました。今後は本学での学びを大切に、目標とする看護師像に近づくことができるよう、一步一步着実に努力し続けていきたいです。



大川キャンパス 福岡保健医療学部
言語聴覚学科 小林 佑子

4年間の大学生活では、座学や実習をはじめとした専門的な科目だけでなく海外研修や関連職種連携論等を通して医療者になる者としてさまざまな経験をさせて頂きました。私自身、海外研修を通して途上国の医療に深く関心を持ち、自ら始めず医療を

見出すことができました。このように、本学を卒業できますのも苦業を共にした友人、諸先生方、実習先の指導者の先生方、患者さんをはじめ多くの方々のおかげであります。この場を借り、深く御礼申し上げます。

これからは、医療者として卒業した皆々が目標や理想を持ち、医療に携わっていくこととなります。私自身、国内だけでなく海外の医療を視野にいれグローバルな視点を持ち、患者さんに寄り添っていきけるセラピストとなれるよう努めていきたいと思っております。

学長賞

保健医療学部

看護学科 海口 栄理香

理学療法学科 二瓶 好人

作業療法学科 黒崎 晴菜



言語聴覚学科 折原 枝里子

視機能療法学科 間中 理紗

放射線・情報科学科 菊地 貴生

医療福祉学部 田村 麻由佳

医療福祉学部 マネジメント学科

田村 麻由佳

小田原保健医療学部 理学療法学科 神野 一元希



大学院長賞

医療福祉学研究所
博士課程 保健医療学専攻
臨床検査学分野
船島 由美子



現在、私は大川キャンパス医学検査学科で臨床検査学に関する教育・指導を行っています。4年前に大学教員として着任した当初は、学部生への教育や研究指導に知識不足を感じることもあり、自身自身の更なる知識向上をめざし博士課程に進学しました。研究テーマとして多くの国々で問題となっている薬剤耐性菌の遺伝子を網羅的に検出できる検査技術の開発をめざしました。この技術が確立すれば、世界的に蔓延している薬剤耐性菌の感染制御にも貢献できると考えました。研究を行うなかで知識や技術的な問題にも直面し、研究の難しさを痛感させられました。多くの皆様のご支援・ご協力をいただき無事に博士課程を修了することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。今後は、博士過程で修得した知識や経験が少しでも役立つような教育を実践していきたいと思っております。

医療福祉学研究所
修士課程 保健医療学専攻
放射線・情報科学分野
根本 玲央



私は臨床現場と大学院生の二足の草鞋を履く生活でした。臨床の場での課題を何とか解決したい、課題の背景を探りたいと考え、勉学に励みました。研究テーマを深め、一つの体系的な論文をまとめてゆく過程は、自らの知力、体力、精神力の限界に挑むものでした。しかし、共に試験を乗り越えようとする仲間達や、支えてくれる後輩、先生方のきめ細かいご指導、研究に協力してくださった方々に励まされ、国内に留まらず、アメリカでの学会発表なども経験することができました。そして、名譽ある大学院長賞を受賞することができました。

成果をまとめあげた時、その喜びと達成感は何物にも変え難く、今、振り返ってみますと苦難の時期というのは、自らと向き合うことができた幸せな時間であり、その過程が自分を成長させてくれたのではないかと思います。今後はこの経験を生かして臨床の現場に結び付けていきたいと考えています。

医療福祉学研究所
修士課程 保健医療学専攻
作業療法学分野
渡部 誠一



修士課程の2年間惜しみなくご助言、ご指導頂きました杉原素子教授、谷口敬道教授をはじめとした国際医療福祉大学の諸先生方、そして研究に理解と協力を頂いた対象者の皆様、職場の皆様、支えてくれた家族に感謝申し上げます。

私は学部を卒業して、作業療法士としての12年目が終わる頃、研究手法や論文の執筆を学びたいと思い、母校の国際医療福祉大学大学院に進学を決めました。しかし修士課程は研究手法や論文執筆のみならず、講義や研究過程を通して「対象者にとって、どのようなことが必要か」「この知見をどう対象者に還元するか」と作業療法士としてのあり方を考え、臨床を再考する2年間でもありました。今後は得た学びを活かしながら、保健医療福祉分野に貢献できる研究実践と臨床実践を研鑽していきたいと思っております。

学長賞・大学院賞



医学検査学科 塚本 のはら



作業療法学科 堀之内 奈緒



理学療法学科 川津 隆太郎



看護学科 野村 綾音



作業療法学科 石井 麻耶

第117回 大田原

キャンパスレポート

視機能療法学科4年生 高齢女性を保護し表彰

道に迷った高齢女性を保護した功績で、視機能療法学科4年の五十嵐未幸さん、福興ほなみさんに大田原警察署長から2月4日、「思いやり110番実践者」として感謝状が贈られた。

2人は1月26日夜、大田原市末広2丁目の歩道でうずくまっていた高齢女性を発見。そのまま放置しておく危険だと感じて警察に通報。警察官が到着するまでの間、女性に付き添い、無事に家族へ引き渡すことができた。



●感謝状を贈呈された福興さん(左)、五十嵐さん(中央)と大武署長

取った五十嵐さんは「当たり前のことでした。ただ」と振り返り、福興さんは「とにかく助かってよかったです」と安堵していた。

(総務課 宇賀神祐貴)

福島県富岡小中学校を訪問

福島県富岡町は東日本大震災に伴う原子力発電所事故による避難指示が2017年に一部地域を除いて解除され18年には小中学校も再開された。大田原キャンパスでは、本学で集めたベルマークを活用してもらうため、学生ら13人が今年2月13日、同町の富岡小中学校を訪問した。



●小学1、2年生のクラスでの学習支援の様子

子ども達との交流では、「もつと知りた、体を動かしたい」と目を輝かせている姿や、お互いに協力しながら学習している様子を見ることができた。同時に「この温かい気持ちを持った子ども達をこれからも応援していきたい」と強く思った。

震災から8年が経ち復興が進んでいると言われるが、事故で放出した放射性物質の影響で、避難指示区域などでは「目に見えない震災」が続いていることを忘れてはいけなさと改めて思う。今後も富岡町の方々との出会いを大切に活動していきたい。

大田原キャンパスでは随時ベルマークを集めています。ご協力をお願いします。

(視機能療法学科4年 安藤千陽)

第15回 成田

キャンパスレポート

成田北高等学校との 高大連携協定締結式

千葉県立成田北高等学校(以下、成田北高)との高大連携に関する協定締結式を3月15日、本学で行った。成田北高からは、弘海政信校長、金田一幸教頭、本学からは、城間将江成田保健医療学部長、松谷美和子成田看護学部長らが出席した。

成田北高では、2020年度から普通科に「医療コース」が設置されることになり、医療従事者に必要な豊かな人間性や、人々の健康を守るための使命感、倫理観などを養うという目的に沿って、本学との連携について協議を重ねてきた。その結果、講話・出張講義、本学での講義・実習、病院の見学・実習などを通じて、相互の教育活動をより推進・活性化させていくことで合意した。

国際医療福祉大学 千葉県立成田北高等学校 高大連携協定締結式



●左から、成田北高の金田教頭、弘海校長、本学の城間学部長、松谷学部長

初めに、成田市の担当者から市の概要が説明され、その後、グループに分かれて、「成田市の良いところ」と「成田市の可能性」について意見を交換し、それを踏まえて、「これからの成田」についてまとめた。

活発な討論の結果、成田市をより住みやすい町にするためのアイデアや、子育てや高齢者のことを考えた医療系大学ならではの提案が数多く出され、成田市にとっても本学にとっても有意義なワークショップになった。

(総務 上田哲生)



●グループの代表による発表の様子



●模造紙にアイデアを書き込む参加者

第40回 福岡

キャンパスレポート

学友会主催のクリスマス会

学友会主催のクリスマス会を昨年12月18日、福岡キャンパスで開催した。クリスマス会の目的は学生間の交流を深め、学友会の活動を知ってもらうこと。学友会が主催するイベントの中でも、このクリスマス会は盛り上がるイベントのひとつであり、今年もたくさんの学生が参加した。

この会の醍醐味はビンゴ大会でビンゴになった人から順にくじを引き、あらかじめ準備されている当選番号の景品をもらえる。今回も景品の中には「クッス」とみんなに笑ってもらえるような景品から、テーマパークのペアチケットや旅行券等、バラエティーに富んだものを用意した。当選するたびに笑いや歓声、落胆の声が起こり、とても楽しい会となった。お菓子やジュースもたくさん用意し、自由に動き回れる雰囲気を作ったことで、学生同士の親睦が深まる。同時に学年を超えた交流もできたと思う。



●クリスマス会で盛り上がる学生たち

準備の段階から学友会のメンバーで会場をクリスマス風に装飾したり、お菓子やジュースの買い出し、景品番号を振り分けたり、みんなが協力的に手伝ってくれた。短時間の開催だったが、参加した学生は日頃の授業や実習の息抜きになったのではないかと思う。今年末もぜひ開催し、多くの学生に参加してほしい。

(看護学科3年 河村空)

第54回 大川

キャンパスレポート

2018年度 韓国テグハニ大学受入研修

韓国の協定校、テグハニ大学臨床病理学部の学生28人、引率教員2人が1月24日から30日まで大川キャンパスで研修を行った。座学で日本の医療制度を学び、グループ関連病院・施設の見学を通して日本の臨床検査技師の役割や最新の医療機器を、実際に見て学べるプログラムとなっており、2015年度の開始以来、今年度で4回目を迎える。

初日はオリエンテーションやキャンパスツアー、歓迎夕食会が行われ、2日目から講義や実習、病院見学、学生交流を実施した。なかでも、遺伝子検査実習、また高木病院との連携により本学が開設した福岡シミュレーション医学センターでの実習は、韓国の学生にとって充実した教育環境に触れる機会となり、積極的に学ぶ姿勢が見受けられた。



●太宰府観光を楽しむ学生たち

1週間という短い研修期間だったが、講義・実習・施設見学と合わせ、文化交流を通して本学学生と親睦を深めることができ、学生たちは有意義な時間を過ごせたようだ。

今後、日本を上回る早さで高齢化が進むとされている韓国では、病気の予防や早期発見のために健康診断や人間ドックの需要が増加し、臨床検査技師が一層重要な存在になることが予想される。今回の研修を今後に生かし、将来の韓国の医療分野を支え、活躍してほしい。

(国際係 杉原活郎)

「今後の成田市のまちづくりについて 考えるワークショップ」を開催

成田市企画政策課主催の市民参画推進事業「今後の成田市について考えるワークショップ」が2月16日、本学で開催され、学生22人が参加した。

初めに、成田市の担当者から市の概要が説明され、その後、グループに分かれて、「成田市の良いところ」と「成田市の可能性」について意見を交換し、それを踏まえて、「これからの成田」についてまとめた。

活発な討論の結果、成田市をより住みやすい町にするためのアイデアや、子育てや高齢者のことを考えた医療系大学ならではの提案が数多く出され、成田市にとっても本学にとっても有意義なワークショップになった。

(総務 上田哲生)

オープンキャンパスなど イベントを開催

大田原キャンパス

10日にオープンキャンパスを行った。天候に恵まれ、900人近くの高校生や保護者が参加した。「15分でわかる国際医療福祉大学」「学科体験入学」「バスでぐるっとキャンパス見学ツアー」など、盛りだくさんの企画で来場者も楽しんでる様子だった。



●総合受付では学生たちが笑顔でお出迎え

福岡キャンパス

オープンキャンパスを16日に開催した。「プロ・看護師の仕事」と題し看護職者について学ぶ模擬講義では、参加者が看護職者の活躍の場の広さや責任の重大さに関心を示していた。学生交流では、たくさんの参加者が訪れ、在學生に授業やキャンパスライフについて色んな質問をしていた。



●模擬講義の様子

大川キャンパス

17日にオープンキャンパスを開き、総合ガイダンスの中で「メディカルライブ」を実施した。各学科の教員がセラピストや患者役を演じ、各職種役割を参加



●メディカルライブ

東京赤坂キャンパス

21日に説明会を開催した。心理学科、医療マネジメント学科の両学科長と在學生が「医療を支える学びの魅力」を語った。説明会後にはキャンパス見学会と進学相談会も行い、どちらも参加者が多く、大盛況のイベントとなった。



●学科長と学生が学科の魅力を語った

小田原キャンパス

23日にミニオープンキャンパスを開催した。天候が悪いなか、多くの高校生、保護者の来場があった。「英語対策講座」では予備校講師による入試問題の解説、今後の受験勉強に向けたアドバイスを行い、聴講者はみな熱心にメモをとっていた。



●学科別体験学習

成田キャンパス

24日にオープンキャンパスを開催した。春休みということもあり、来場者数は昨年より300人増。初めて実施した学生による「キャンパスツアー」も好評で、参加者は学生の案内でキャンパスの各階を見学した。



●学生によるキャンパスツアー

国際医療福祉大学病院

ハーブの音色を楽しむ 後援会主催「新春コンサート」

当院後援会が主催し、昨年に続き2回目となる「新春コンサート」が1月26日、A棟1階正面入口前のロビーで開かれた。佐藤幹雄後援会長の挨拶に続き、大和田倫孝病院長が後援会へのお礼の言葉を述べ、コンサートが始まった。

国際医療福祉大学等 曲部「胡桃(こと)の会」が新年らしい琴の音色による「ポップスメドレー(春よ来いタッチ・いい日旅立ち)」「雪解けしずく」「編曲民謡調」を披露した。引き続き、地元で演奏活動を行っているハーブ奏者「森のハーブ弾き」こと阿久津瞳さんがアイリッシュハーブで「さくらさくら」「虹の彼方に」「喜びの歌」「いつも何度でも」「風のとおり道」「糸」「ふるさと」を演奏し、聴衆を魅了した。阿久津さんは、ハーブの体験コーナーも開き、来場者は、貴重なハーブの演奏体験を楽しんでいた。



●新春コンサートで演奏する「胡桃(こと)の会」

外来患者様はもちろん、入院中の患者様も看護師やリハビリテーションスタッフに付き添われて来場した。小児から高齢者まで幅広い年齢層が集まり、立ち見も出て、来場者は76人と、大変盛況なコンサートになった。

集まった人たちは、演奏に合わせて歌詞を口ずさむなどしながら、心癒される楽しいひとときを過ごした。

(総務課 平野幸宏)

国際医療福祉大学熱海病院

アレルギー疾患講演会を初開催

当院は3月9日、アレルギー疾患講演会を開催した。演題は、アレルギー内科・総合内科・星野誠教授「あなたの喘息はコントロールされていますか」▽皮膚科・高橋一夫教授「アトピー性皮膚炎の診断と治療法」▽耳鼻咽喉科・原田竜彦教授「アレルギー性鼻炎とその治療法」。患者様や近隣の方々など多数が受講した。

この講演会は、

当院が昨年8月に静岡県アレルギー疾患医療拠点病院の認定を受けた後、県の要請を受けて初めて開催した。アレルギー疾患が発生するメカニズムや舌下免疫療法など新しい治療法について説明し、講演終了後には小児科・神岡哲治准教授、栄養室・石井央子主任、薬剤部・野田真理子職員を交え、患者様の疑問や悩みに関してお答えするパネルディスカッションを行った。



●パネルディスカッションの様子

今後定期的な開催を続け、県アレルギー疾患医療拠点病院としての取り組みに力を入れるとともに地域医療に貢献していきたい。

(総務課 曾根大輔)

市民公開講座「不整脈を知ろう」

当院は3月2日、国際医療福祉大学大田原キャンパスF101教室(大講堂)で、市民公開講座「不整脈を知ろう」を開催し、452人が来場した。

柴信之副院長(循環器センター)長の挨拶の後、第一部「不整脈について学ぼう」では、福田浩(ハートリズム科部長)が「不整脈ってどんな病気?」との演題で講演を行った。

第二部では、佐竹洋之循環器内科医長の「カテーテル治療、ここまで治る不整脈」に続き、高田剛史循環器内科医長が「突然死を防ぐ、不整脈治療の進歩」と題して講演した。また、当院が開設を予定している「不整脈センター」について、福田部長が紹介した。

それによると、栃木県東北地域では不整脈疾患に対応できる専門施設がなく、東北以外の施設に送らざるを得なかった。このため当院は2017年、ハートリズム科を開設し、東北地域で初めてカテーテルによる本格的な不整脈治療を開始し、順調に業績を伸ばしている。東北唯一の植込み型除細動器植込み認定施設でもある。また18年には東北唯一の不整脈専門医研修施設認定を受け、あらゆる不整脈疾患に対応できるようになった。そこで、地域の皆様に当院の不整脈診療を幅広く知ってもらい、最新の治療を提供するため、不整脈センターを開設することになった。

第三部のシンポジウム「不整脈かなと思ったら」では、参加した市民と講師が活発な意見交換を交わし、実りの多い公開講座となった。

(総務課 平野幸宏)



●市民公開講座「不整脈を知ろう」講演の様子

国際医療福祉大学市川病院

第3回「医療連携症例報告会」

「第3回国際医療福祉大学市川病院医療連携症例報告会」を3月7日、当院で開催した。地域医療機関の方々とともに以上の緊密な医療連携を図り、地域住民の方々に適切な医療を提供することを目的としている。今回は本年度3回目となり、市川医師会はじめ22人の先生方にご参加をいただいた。

報告会では、当院における肺炎治療の実際について、呼吸・嚥下リハビリテーション・肺結核を含め(呼吸器内科服部知洋部長)▽「手術の変形性関節症について」(整形外科中山政憲医長)▽「パレエダンサーの足部傷害について」(同科竹島憲一郎副医長)の3つの症例報告を行った。



●竹島副医長の講演に耳を傾ける参加者

懇親会では日頃から医療連携でお世話になっている医療機関の先生方といういろいろな事柄についての意見交換ができ、また、日頃の感謝の意をお伝えすることができた。

(地域医療連携室 田中弘一郎)

国際医療福祉大学塩谷病院

やすらぎの「みどり」おもてなし 植樹会 in やいば

栃木県や地元各市、環境・ボランティア団体などで組織する「県北地区エコもり」地域推進協議会主催の植樹会が3月5日、当院で開催された。この催しは、県西、県東、県北、県南の4地域でそれぞれ、「地域で「みどり」のおもてなし事業」として、住民や事業者との協働で取り組む緑づくり活動(植栽活動)の一環として行われたもの。同協議会から当院へハナミズキとソメイヨシノ各2本、ドウダンツツジ10本が寄贈された。

須田康文病院長、高藤徹事務部長が病院玄関南側の敷地にハナミズキを植樹、国際医療福祉大学塩谷看護専門学校が学生がプランターにドウダンツツジを植えた。植樹会後は、ハナミズキの苗木を、外来診療で訪れていた患者様に配布した。

植えられた木は、2〜3カ月後には花を咲かせ、患者様に癒しを与えてくれることでしょう。

(総務人事課 荒巻一恵)



●植樹する塩谷看護専門学校学生たち



●植樹する須田康文病院長

山王病院

リプロダクション・婦人科内視鏡治療 センターがPRP療法を開始

当院リプロダクション・婦人科内視鏡治療センターは、3月から多血小板血漿(platelet-rich plasma: PRP)を使った不妊治療であるPRP療法を開始した。

PRP療法は、自分の血液内から傷などを治す能力を持つ血小板由来増殖因子を取り出し、自分の身体に戻すことで再生を促す治療で、従来、ひざの変形やしわをなくす治療に用いられてきた。不妊治療では、複数回胚移植をしても着床しない、流産を繰り返すなどの患者様が対象で、患者様ご自身の静脈血を少量採取し、専用の機械で血漿部分を抽出、調製したPRPを子宮内に注入するという新しい治療法だ。PRP療法により、子宮内膜が十分に厚くなり、受精卵が着床しやすくなると考えられており、昨年行った臨床研究では、20例の着床障害の人のうち、5例の方が妊娠に至った。



こうした研究結果を踏まえ、当院は3月14日、厚生労働省から日本初の実施設として認可を得て自費診療での治療を開始した。従来の不妊治療を繰り返しても妊娠に至らなかった患者様に対し、期待が持てる画期的な治療であり、今後も実績を積み重ね、有効な治療として確立していきたい。

(総務課 山本悦子)

国際医療福祉大学三田病院

「がんサロン和み」で脱毛ケア

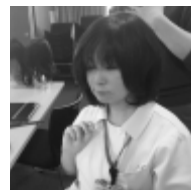
当院では、がん患者様とご家族を対象に療養生活における問題の解決、医療従事者を含む人的交流を目的とし、「がんサロン和み」を実施している。3月9日、「がん治療中の脱毛・頭皮ケア」をテーマに、今年度第4回目のがんサロンを開催した。

ウィッグメーカーから講師を招き、医療用ウィッグと一般用ウィッグのちがいを手入れ方法を説明してもらい、試着会を行った。

サロン前にウィッグを自分で購入した患者様からは「着用在りずかしく、結局使用していなかった。今疑問だった点が解決でき、今後は着用したいと思った」「楽しい雰囲気の中で参加できた」等のご意見をいただいた。

がん治療中の患者様は、日常生活のさまざまな面で、新たな状況に適応するむずかしさや不安を抱えている。どこで誰に相談すればよいかわからずに過ごされている方も少なくない。少しでも役立つ情報を提供し、身近なことを相談できる場となるように、今後も運営していきたい。

(看護部 がん性疼痛看護認定看護師 藤咲麻美)



●試着の様子



●ウィッグについて説明を受ける様子

福岡中央病院

地域医療への貢献めざす 福岡中央病院が開院

医療法人社団高邦会は、1926(大正15)年から続いた「日本郵政グループ 福岡通信病院」を4月1日に継承し、病院名を「福岡中央病院」に改めた。今後は、「生命の尊厳・生命の平等」という高邦会の理念と、「共に生きる社会」の実現をめざす国際医療福祉大学の建学の精神のもと、旧病院の歴史と伝統を引き継ぎながら、地域の方々へより一層充実した医療と温かなサービスを提供する。現在の建物は地上7階・地下1階で、192床(一般病棟87床、地域包括ケア病棟60床、療養病棟45床)。

福岡市中央区という交通至便な好立地に恵まれており、地域に密着した病院をめざす。

開院に先立ち、3月29日にホテルニューオータニ博多で行った「福岡中央病院発足式」では、高木邦格理事長が医師職員に向けて「この地域に少ない急性期に対応した病院をつくってほしい」という声が多く寄せられている。福岡中央病院への期待は大きい。みなさんと心を一つにして良い病院にしていこう」と述べた。



●発足式の様子

(事務部 藤崎雄介)

海外保健福祉事情



2018年度総合教育科目「海外保健福祉事情」の海外研修は、3月までに全ての研修先への渡航が無事終了した。渡航先は16カ国に上り、819人の学生が参加、66人の引率教員を含め、総勢885人が32グループに分かれ派遣された。

学生達は研修先の医療・福祉事情を学び、日本との違いを感じた。異文化体験を通じて海外の多様な価値観への理解を深めている。今号では、1~3月に実施された冬季海外研修4カ国7グループのレポートを報告する。

(大田原キャンパス国際室 佐藤貴子)

オーストラリア ★ グリフィス大学

医療・福祉職目指す特別研修
保健医療学部 視機能療法学科
准教授 岡野真弓

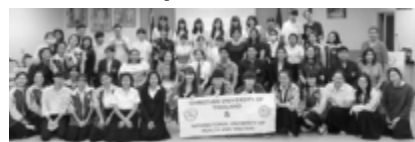
1月31日から2月12日までの13日間、大田原成田キャンパスの学生16人が参加し、ゴールドコーストにあるグリフィス大学で研修を行った。

医療・福祉職を目指す本学学生のための特別な研修プログラムが実施され、研修を通して学生は英語でのコミュニケーションスキルを向上させるとともに、オーストラリアの医療・福祉の現状と課題について理解を深めることができた。また、研修中はホームステイを行い、オーストラリアの文化や習慣、人の温かさを肌で感じたようであった。本研修は、学生にとって語学力向上に加え、国際的な視点を養う貴重な機会になったと思われる。

タイ ★ クリスチャン大学

笑顔でコミュニケーション
成田保健医療学部 言語聴覚学科
講師 岩崎淳也

1月31日から2月9日にかけて、成田キャンパスの学生17人と引率教員2人で、タイ・クリスチャン大学の研修に参加した。体調を崩した学生が多く、プログラムのいくつかが中止となったのは残念であった。だが、タイの先生方の手厚いサポートにより、学生はタイの医療事情や文化に関する理解を深めることができた。



●TOMODACHI HOUR後の記念撮影

タイは「微笑みの国」(Land of smiles)と呼ばれている。その名の通り、研修で出会ったタイの人々は、皆素敵な笑顔で我々に接してくれていた。タイの人々との交流を通し、言語は違っても、笑顔がコミュニケーションの第一歩となることを、学生たちは学んだことと思う。今回の経験が、将来の国際交流のきっかけとなることを願っている。

語学力の向上図りたい

成田保健医療学部 医学検査学科
2年 大原美玲

私たちが訪れたタイでは、最先端技術での治療を行っているが、治療費が他の国と比較して比較的安価であるため、世界中から患者が集まっていた。クリスチャン大学では、先生、学生にたくさんお世話になった。病院大学にも多くのことを学ぶことができたが自分の英語力のなさを思い知った。語学力の向上を図りたいと思った。10日間の海外研修はとても充実した忘れられないものになった。

日本にないシステムに気づく

成田看護学部 看護学科
2年 安田光汰

私たちはオーストラリアにあるグリフィス大学の研修に参加し、医療施設の見学や医療制度についての授業を受け、オーストラリアの医療のレベルや医療システムについて学ぶことができた。オーストラリアと日本を比較すると、共通点が多く見られたが、日本にはないシステムもあることに気づき、普段の病院実習などでは得ることのできない学びを得ることができた。



●研修修了証授与式

また、日々のホームステイでの生活を通して、オーストラリアの文化に直接触れることができた。日本とは大きく異なる点も多く、はじめは少し戸惑ったが、すぐに慣れ、ホストファミリーと楽しく過ごすことができた。

オーストラリア ★ TAFEゴールドコースト

医療事情、文化で貴重な体験
成田保健医療学部 医学検査学科
講師 山口良考

オーストラリアTAFE Queensland研修には、大田原、小田原、成田の各キャンパスから計11人の学生と教員2人が参加した。オーストラリアにおける医療制度の講義、救急救命処置の実技、高齢者施設の見学および入居者とのふれあい、



●救急救命の講義と実習後に先生と記念撮影

シンガポール ★ シンガポール工科大学

ダイバーシティを考える
保健医療学部 看護学科
准教授 謝海棠

本研修は、2月24日から3月6日まで、2つのキャンパス3学科の学生18人の引率に教員2人で参加した。シンガポールは中華系、マレー系、インド系などの人口構成となっており、それぞれの民族に独自の文化・生活の様式がある。学生たちが医療福祉施設を見学することで福祉事情の一端に接することができ、TOMODACHI HOURでも異文化に飛び込み、日本の文化を紹介したり、当地の人と交流したり、多様性を肌で感じながらダイバーシティ(Diversity)の考えを広げるとともに、かけがえのない体験になったものと思う。



●施設見学での美しい景色の前で

言語違うも同じ患者さん第一

保健医療学部 看護学科
2年 小松崎愛乃

2月24日から3月6日にかけてシンガポール工科大学(SIT)での研修に参加し、成田キャンパス、台湾の学生とともにシンガポールの文化に触れながら医療制度等について学んだ。日本との違いを感じることも多かったが、たとえ文化や言語、医療制度が異なっているとしても患者さんを第一に考えた環境づくりやケアの提供が行われているというところは同じであった。一見、当たり前だと思ってしまうが、これが将来医療従事者となる私たちに忘れてはいけないことだと身をもつて感じる事ができた。

今回の研修で学べたことを今後の学習、将来に少しでも活かせるように励みたい。

各国の留学生と交流

保健医療学部 放射線・情報科学科
2年 柿沼りお

オーストラリア冬季の研修ではTAFE、老人ホーム、病院等を通して、12日間にわたり海外の福祉事情を学んだ。参加者は大田原キャンパス、小田原キャンパス、成田キャンパスの学生計11人、教員2人だった。TAFEでは各国からの留学生を対象とした講義が開講されており、私たちは英語を共通言語として他国からの留学生・現地のオーストラリア人と交流した。

現地での保健福祉施設見学では、日本の福祉事情と共通する要素と、オーストラリアの特有の要素を学ぶことができた。この研修を通して、さらに見聞を広め国際的に活動したいと思った。

オーストラリア ★ TAFEケアンズ

興味深い先住民の保健医療
保健医療学部 言語聴覚学科
教授 前新直志

成田、大田原キャンパスの看護学科と言語聴覚学科の学生14人が参加。到着後ホストファミリーに迎えられて研修開始。オーストラリアの医療福祉事情の見学、

シンガポール ★ ナンヤン・ポリテクニク

制度構想の違いと共通点探る
医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科
教授 加藤尚子

初日の成田空港で学生26人を見送って、不安げにおとなしげに思った第一印象は、7時間後チンギ国際空港に降り立って以来どんどん修正された。ナンヤン・ポリテクニクの人は、とても慣れた雰囲気、最大限の心配りで私たちを迎えてくれた。終盤のTOMODACHI HOURでは、どちらの国の学生かわからなくなるほど混じり合い、大変な盛り上がりだった。シンガポールという国の多様性と可能性を垣間見て、両国の社会構想の違いを踏まえた医療福祉制度の構想の違いとその根底にある共通点を探ることができ、有意義な研修となった。

熱心な人材育成に驚嘆

医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科
2年 倉持圭崇

2月24日から3月6日の11日間にかけ、シンガポールの様々な施設の見学をした。その中で最も驚かされたのがナンヤン・ポリテクニクだった。



●ナンヤン・ポリテクニクでの集合写真

ここは日本の高等専門学校と同じで、約1万5千人の学生が在籍していた。学生達は卒業後には就職先で即戦力となるように在学中に最新の機器に触れ、現場により近い環境で実技試験を行っていた。私はこの人材育成に対する熱の入れようにと驚かされた。同時にシンガポールの人手不足が深刻であるのだと知ることができた。

ハンガリー ★ センメルワイズ大学

密度の高いプログラム
成田キャンパス総合教育センター
教授 村上大介

ハンガリー研修は2018年度初めて実施された。センメルワイズ大学と本学担当者の綿密な事前調整で、初年度から密度の高いプログラムが用意されたと感じている。成田キャンパスの学生13人(ST10人、MT3人)、大田原3人(ST2人、ORT1人)、小田原1人(NS)と教員2人が参加。ST専攻が約3分の2を占めたが、施設見学や講義が続く中、国立のハビリ施設ではSTに焦点を当てた講義と質疑の場が設けられるなど、先方も柔軟に対応してくれた。異なる社会・文化での福祉医療に触れた体験が、学生たちの将来の糧となることを期待したい。

密度の高いプログラム

成田保健医療学部 言語聴覚学科
2年 木内優歩

2月24日から3月6日まで、ブダペストでの研修に参加した。センメルワイズ大学の講義や様々な病院と障害者支援施設の見学を通して、ハンガリーの医療事情、各施設の特徴、患者への支援方法に加え、文化や歴史について学んだ。日本との共通点もあったが、私が専攻する言語聴覚士の育成制度が大きく異なっており、非常に驚いた。言語聴覚士が行うリハビリテーションを医療と捉えるか、教育ととらえるかによって、その育成過程に変化が生じることを知り、視野を広げることができた。この度の異文化の中での貴重な経験と知識を今後の学習に活かしていきたい。



●センメルワイズ大学の前で



●これから始まる研修に対し期待に胸をふくらませた初日



障がい者スポーツクラブ (PSC:Para Sports Club)

こんにちは。福岡保健医療学部「障がい者スポーツクラブ(PSC:Para Sports Club)」です！私達は、主に理学療法学科で活動しており、障害のある方々とスポーツを通して、個人のスポーツスキルを高めるだけでなく、ルールを理解し、仲間と協力してスポーツをすることの楽しさを広める活動をしています。現在、2年生37人、3年生45人、4年生24人が所属しており、その中でも、4年生14人が障がい者スポーツ指導員中級の資格を取得し、さらに専門的な指導員として、日々活動しています。

活動内容として、主に地域の軽運動教室、全国障がい者スポーツ大会福岡県代表団、ときめきスポーツ大会、車いすバスケットボール大会等のスタッフとして、企画作成、指導、選手のサポートをしています。障害をもつ子どもたちとの軽運動教室では、障害のレベルに応じた企画の立案や、スポーツに興味を持つような道具の工夫など、みんなで話し合いながら、その場で臨機応変に対応できるようにしています。



これまでの活動の中で特に印象に残っていることは、車いすバスケットボール大会でのボランティアです。最初は、選手のためにどのようなサポートをすればよいのか、自分が持っている車椅子の知識だけで対応できるか不安でした。しかし、選手やスタッフの方々

が丁寧に指導していただき、実際に競技用の車椅子を触らせていただいていたので、組み立て方や操作方法など知ることができました。特に選手の方々の競技に対する思いと、選手の方々の親切さ、そして選手を支えている周りの方々の力が印象深かったです。試合を観戦していると、迫力のある試合であるため、転倒する場合があります。その時でも、選手たちはチームのために自力で立ち上がったり、仲間と一緒に一瞬で助けたりして、すぐに切り替えてプレーに戻る姿を見て、競技に対する熱意が伝わってきました。ボランティアをしていく上で、どの選手の方々も「ありがとう」「助かった」と温かい言葉をかけてくださり、私たちの励みにもなりました。選手だけではなく、選手を支える方々の思いが選手たちの力となり改めてスポーツの良さを実感しました。このような貴重な体験から多くの方々とコミュニケーションをとることができ、沢山の技術や知識を見て学ぶことができる部活だと思います。



このような知識や技術を一緒に広めていきませんか？

福岡保健医療学部がある大川キャンパスでお待ちしております！

福岡保健医療学部 理学療法学科4年
江原杏菜



「母国のリーダーになれるよう励みます」

母国・ミャンマーでは私は、ヤンゴン第二医科大学の1年生でした。子どものころから外国で勉強するのが夢で、高校の最後の年に交換留学生として日本で10日間の文化交流プログラムに参加し、日本がますます好きになり、国際医療福祉大学の奨学生試験を受けました。私は挑戦が大好きです。人間は挑戦することで成長し、強くなれます。だから私はミャンマーの医学部を離れ、国際医療福祉大学で学ぶ道を選びました。医療のプロフェッショナルになるための長い旅路には、きっと多くの障害があるでしょう。しかし、医療のプロになり、たくさんの人々の命を救い、彼らの笑顔を見たときにはきっと、その努力の甲斐があったことを知ることができると信じています。私たちの潜在能力を信じ、機会を与えてくださったことに心から感謝します。皆様のご期待に応え、それぞれの母国で医療分野のリーダーになれるように一生懸命勉強に励むことを、留学生一同、ここに誓います。(要旨)

4月3日成田キャンパス 留学生新入生代表 ヘイン テツ アウン(医学部医学科)



広報誌 IUHW 117号 発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000
〔成田キャンパス〕
千葉県成田市公津の杜4-3 ☎0476-20-7701
〔東京赤坂キャンパス〕
東京都港区赤坂4-1-26 ☎03-5574-3900
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25(本校舎) ☎0465-21-6500

〔福岡キャンパス〕
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4(1号館) ☎092-407-0805
〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000
編集：広報部 ☎03-5574-3828
デザイン：野佐デザイン



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

ホームページでもご覧いただけます。
<https://www.iuhw.ac.jp/>

©国際医療福祉大学2019 Printed in Japan 禁無断転載・復写